

シェークスピアへの探究

N. Waddell

私のテーマは、所謂 Shakespeare 問題である。つまり、誰が Shakespeare の劇を書いたか、或は又、誰が William Shakespeare であったかという問題である。数百年前から Shakespeare の正体については色々な疑問があった。しかし、そのような疑問は他の作家については全くない。勿論ある特定の名作については、誰が書いたかということに疑問を持たれたことはあるが、著者の全作品に関してはなかった。一方には Shakespeare の劇があり、もう一方には Stratford on Avon の Shakespeare があって、その疑問のでてくる理由は、その二つが一緒になる時である。つまり、その劇と人物との間に、あまりにも違いがある。今日は二人の人物について話そうと思う。一人は生まれも死も Stratford on Avon にあつた伝統的な Shakespeare、もう一人は Edward de Vere, the Earl of Oxford とある。便宜上、この二人を Stratford (St) と Oxford (O) と名付けることにする。そして Shakespeare (S) は劇を書いた人にする。私は St と O のどちらが劇を書いたのかはわからない。しかし、誰にもわからない事でもある。何故ならば、状況証拠はあつても絶対的な証拠はないからである。私は O という見方をとる。彼の名前すらあまり知られてはいないが、私は彼こそが本当に S の偉大な劇を書いた可能性が高いと思う。二十年前に Shakespeare Fellowship という英国の学会を知った時に、初めて S 問題に興味を持つ様になった。そ

の学会は一九二二年 Shakespeare Identified という本が出版されてから作られた。その本は英国の教師 Thomas Looney によって著され、彼はその中で初めて S の芝居が O のものであるという見方をとった。その時までは、S 問題はあまり深く考えていなかった。極めて冷静、理性的な人間達が、その様な学会を作ることと驚いた。それから S の伝記と時代についての本を読み、S の人生については殆ど知られていないという事がわかった。彼が生きた時代の記録を、ここ二百年の間、数百人に及ぶ学者がづぶさに調べていた。その劇を書いた人間と、生きた人間との関係を裏付けるような事実をずっと捜してきた。しかし、何も出てこない。変だ！ S と同時代の人物に、同じ程の時間と努力を用いたならば、その伝記が書けるに違いない。色々な聡明な人間が昔から S の伝記については疑問を抱いていた。例えば、Mark Twain, Charles Dickens, Emerson, Whitman, Henry James, Freud 等は皆、S 愛好家であるが、誰も St がその劇を書いたとは信じていなかったのである。

STRATFORD

St の伝記は、僅な事実と伝説、特に著者の豊かな想像から作られている。我々の知る事実とは、St の生まれた年、父に関する少しの事、St の結婚、三人の子供の誕生の時、商売、法律関係の記録しかない。その記録では St が劇作家である事は全然繋がらない。St を特別な人間とする記録は何もない。況してや偉大な詩人であるとは、St の生涯は三つに分かれる。一期、Stratford on Avon にいる。彼の家族と囲りの人は文盲であり、文学や文筆には全然関係ない生活であった。二期、彼はロンドンにいる。

非常に粗野な田舎の方言であり、その地に在ってはアウトサイダーであった。しかし、突然、知識を得る暇も殆ど無い様に見えるにも拘らず、大変な勢いで世界で偉大な文学を書き始めるのである。それは二つの長い詩、一五〇のソネット三十五以上の劇に及ぶ。その作品は大変な知識の広さがあり、使われている単語は莫大な数に及ぶ。そして最後の三期・彼は突然文学をやめる。再び Stratford on Avon に帰り、又普通の人間にもどるのである。そして、死に至る迄の次の十年間、一作も書いていない。一六〇三年、エリザベス女王が亡くなった時、当時の有名な詩人の中で彼だけが口を閉ざした。彼が死ぬ時には手紙も蔵書も、どんな記録も残していない。ただ遺言の中に、自分の文学には全然触れず、他の色々なつまらない細かい事は書いてある。従来伝記によると、S は Stratford Grammar School で勉強した。しかし、そういう証拠は一つもない。伝記者は当時のグラマースクール教育では S の様な膨大な学を作るのは不可能であり、かなりの教育がなければ、その劇を書く事ができないのは明らかであるとしている。S は当時が一番優れた教育を受けていた筈である。而も貴族階級と非常に親しい関係にあった。その生活、知識、言葉、マナー、スポーツ等に於て。S はフランス語、イタリア語、又ラテンとギリシヤの古典文学にも非常に深い知識を持っていた。

O の支持者は、Shakespeare はペンネームであったとする。彼はその名を劇に適しているから選んだというのだ。スピアをシェイクする人 (Spear-Shaker) はアテナという女神 (Pallas Athena) のあだ名であり、アテナはアテネという都市の守護神であり (the patron goddess of Athens)、劇の発祥地である。O の家紋はライオンがスピアをシェイクしている姿であった。当時の人が O を

スピアをシェイクする者として誉めていた文章が残っている。O 支持者は S は文盲だと言った。S の言葉の記録は一つもなく、手紙も一通も残っていない。彼の両親と妻は文盲であった。娘は自分の名前しか書けなかった。彼について殆ど記録が残っていないという理由は、彼の人生には特筆すべき事が無かったからと考える。S の筆跡としては六つのサインしか残っていない。そのサインの下手さから考えると、文章に慣れている人とは考えられない。以上のような証拠によって、O 支持者の結論は、S は人格、背景、教育、経験に於ても、S の作品を書ける様な人間と殆ど正反対の人間であったというのである。

The EARL OF OXFORD

Shakespeare Identified の著者 Looney は、S の作品をつぶさに調べ、どの様な人間が書いたかを想像し、十七の性格を選び出した。そして合致する人物を捜したのである。S はその十七のうち一つも合わなかったのである。しかしその全てに合致する人物を見出した。その人物こそ Edward de Vere であった。Looney は従来 S の劇について色々な問題、例えば書かれた年や源等の色々な問題が、O が S であったならば、その問題が全て消える事になると考えた。彼はまず S の最初の出版された作品 'Venus and Adonis' をとり、十六世紀の詩の中からこの作品と同じ様なものを捜した。膨大な詩の中に見つけられたのは、たった二つであった。一つは無名であり、一つは O のものであった。形だけでなく、その詩の性格は S と異なっていないかった。O は学者、詩人、劇作家、音楽家であり、又スポーツマンであった。イタリアびいきのヨーロッパ旅行者であった。彼は当時、喜劇に

於て一番の作家とされていたが、彼の書いた作品は今、日までは伝わっていない。Oの家族は貴族の中でも最高の貴族であった。エリザベス女王のいとこにあたり、彼の父は劇団を持っていた。息子である彼は音楽とドラマを日常のように見たり聞いたりしていた筈である。彼は英国一の先生に個人教授を受けた。しかも非常に優秀な生徒であった。武芸に於ては貴族の中で一番上手とされた。一五七五年からは二年の間フランスとイタリアに旅行した。イタリアでは度々当時の喜劇の *Commedia dell'Arte* を見に行つた。喜劇はSの初期の劇の非常に大きな源とされている。Sはイタリアに関する事を大変よく知っていた。現代の仏文学者が、Sの劇はイタリアとフランスを直接見て来た人によつたという証拠は圧倒的であるとしている。それは劇の中に数ヶ所となく数千であった。彼らの結論はSは最高の身分の貴族であつたに違いないといふものだ。一五七六年、Oは英国に帰る。その年ロンドンで初めての劇場が建てられる。それはOの邸宅の近くであった。一五七八年、エリザベス女王の前で *Gabriel Harvey* という学者がOを誉める演説をした。その中でOは偉大な詩人であり、彼の顔は「*Shakespeare*」であると語り、その後には *Spear-Shaker* という風にも及んでいる。一五八〇年、Oは劇団のかしらになつた。John Lyly や *Christopher Marlowe* と同じ有名な劇作家を雇つた。Lyly は彼の秘書にもなつた。Lyly は英国の最初の劇作家と時々言われる。その作品がSに影響を与えたと言われる。SはLyly から盗んだといふ人もいる。O支持者が言うには、Lyly はOの為に働く前には劇を書いておらず、又Oから離れると以後再び書かなかつたので、彼がOに自分の名前を貸してゐたのではないかといふ事も考えられる。もしOが本当にSであつた

ならば、Sの劇は現在考えられているよりも十年前に書かれていたといふ事になるので、Sが他の人から盗んだのではなく、実際に彼らがSから盗んだということになる。Oの人生はヨーロッパから戻つてから下向きになつていった。結婚生活はうまくゆかなくなり、女王との個人的な関係も悪くなり経済的にも困窮していた。死ぬ迄はあまり自立した事をしていないようだ。或はその間、Sの偉大な悲劇を一生懸命書いていたのかもしれない。彼は一六〇四年六月二十四日にベストで亡なつた。その年にStが *Stratford on Avon* に戻つて作家活動をやめた。Oが貴族として第一に重んじたのは武芸であつたが、他の貴族と同様に詩を書いた。その詩は写本して読まれた。貴族が自分の詩を出版する事は許されなかつた。況して劇の為に書くのは遙に考えられない事だったのである。それ故にOが劇を書いたならば、自分が書いたという事を隠す必要があつた。女王に極めて近かつた彼には武芸以外に道は無かつた。文筆が彼の本来のキャリアで無い事は廻りの皆がよく知つていた。それは威厳を失す恥じる事であつた。而もSの作品の中に、当時の貴族に対し強く批判的なところが多くある点から、彼が *William Shakespeare* というペンネームを使う事を説明してゐるのではないだらうか。